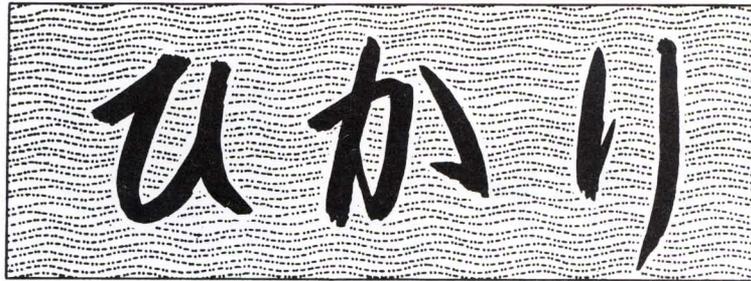


No. 66

2005年(平成17年)
7月1日

発行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
鈴木悟峰



わたしや忘れて暮らすのに
胸に六字の声がする
聞いてよろこぶ
なむなみだぶつ

妙好人 浅原才市翁



蓮如上人500回遠忌法要・鷺森別院再建10周年記念法要(4/9・10) 於 本願寺鷺森別院

阿彌陀經に聞く

—— 十大弟子 摩訶迦旃延 ——

迦旃延は、輪議第一・広説第一といわれ初期の仏教伝道に重要なはたらきをしていました。迦旃延が布教していた地域は、おシヤカ様がおられたところよりかなり西にある辺地でした。

迦旃延の侍者が出家したいと願いました。当時、出家するときには十人のお坊さんが必要でした。おシヤカ様がおられる地域でしたらすぐに集められますが、辺地なので十人集めるのに三年かかりました。侍者は比丘になりました。その比丘は、今度はおシヤカ様に直接お会いしたいと迦旃延に願い出しました。迦旃延はこれを許すと同時に、おシヤカ様に辺地の実状を申し上げさせて、辺地にあった条件をおシヤカ様に伝えるようになりました。

おシヤカ様は、迦旃延から辺地の実状をお聞きになり、申し出のあった条件をすべて認められました。インドは広大な国土で言語も習慣も風俗も様々で、民衆に受け入れられるためには柔軟な姿勢が必要となりました。そして、そのような姿勢から世界宗教に発展するのです。一方で教団が分裂する原因になりました。

紙面が少し余りましたので、阿彌陀經に名の出ていない十大弟子を紹介します。空をよく理解した解空第一の須菩提。観経には出ていて、辺地の地に布教に行つて、命を絶たれても幸せであると決意していた説法第一の富楼那。戒律をよく守り、修行者が戒律にふれる行いをしたときに公平にこれを裁定した持戒第一の優波離です。

(永原智行)

法

話

毎朝本堂で正信偈とご和讃を頂いていますと、親鸞聖人が書かれた正像末和讃に、

劫濁のときうつるには
有情やうやく身小なり
五濁悪邪まさるゆへ
毒蛇悪龍のごとくなり
とうたわれています。

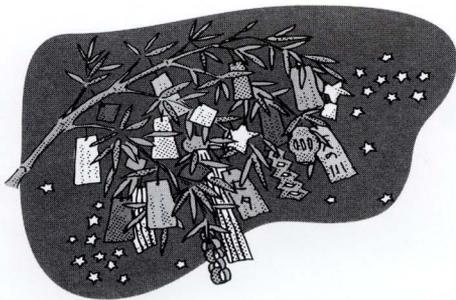
釈尊が娑婆国土を五濁悪世と仰せられたおことばです。五濁（ごじょく）とは劫濁（ごうじょく）・見濁（けんじょく）・煩惱濁（ぼんのうじょく）・衆生濁（しゅじょうじょく）・命濁（みょうじょく）のことです。先のご和讃は、宗祖親鸞聖人は衆生濁のお心をうたわれたものと私は頂いています。

衆生濁とは専門的にはむずかしい定義がありましようが、私は現在の言葉では利己主義ということばではないかと味わっています。利己主義ということばについてはいくど説明しなくても、みなさんはよくお分かりのことと思います。他人の難儀とか、迷惑は、何年でも知らぬ顔をしていま

すが、自分にふりかかったことは半ときも一刻も辛抱できません。世間から微笑みが失われてきたこと、和やかに語り合うこと、共に泣き共に悲しむことなど夢物語のような気さえます。自分さえよければ、テレビを見ていると親が子を子が親の命を奪う、又通りすがりに人の命を奪う等々数え切れない悲惨なニュースが報道される。人間は、だんだんと肌のあたたかみを忘れ、動物化されるといわれる。考えさせられるような気がするではありませんか。衆生濁ということは個人主義と味われます私の気持ち、悲しいことでありますが時折私は私の心に言い聞かせることです。こうした悲しい時代でありながらも、み仏はつねに、夜となく、ひるとなく、それこそ寝てもさめてもへだてなく私に喚びかけて下さる大悲の招喚のおよび声、勿体ない親心と頂かれます。衆生濁についてだけではありませんが、宗祖親鸞聖人の信仰体験の生のまま頂けるお声として五濁ということをしみじみ感ぜられますのは正像末和讃であろうかと、私はいかがわられます。

釈迦如来かくれまして二千有余年、宗祖親鸞聖人御遷化よりまもなく七百五十年、ご本山の御影堂修復後、宗祖親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が勤められることです。説我得仏十万衆生と喚びかけて一人洩らさず救い給う仏さまのお慈悲と、御開山聖人御出世の御恩を私はもう一度かみしめ味わいたいと自問自答します。正像末和讃を拝読しますとき、衆生濁ということも、五濁ということも、御恩ということをししと味わわれます。

（片桐）



法悦クイズ

下の1～3の○内にあてはまる漢字を組み合わせて、亡くなられた方の法名や俗名を記入したものの名称を教えてください。

※ヒント 浄土真宗では、位牌を使用せず、これを用います。ふつう、台にのせ、お仏壇の正面を避け、右隅もしくは左隅に置きます。

1	2	3
○	○	○
則	几	半
天	○	数
○	面	の
私	な	賛
	性	成
	格	

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、所属寺、御感想、御意見を明記の上、〒649-1221 日高郡日高町志賀3851 善宗寺内 組長事務所 までお送りください。 ※抽選で10名の方に粗品を差し上げます。 ※締め切り日 平成17年9月30日 ※発表は次号

66号の正解は、『戸帳』でした。正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

- 円明寺 小林 拓 様
- 念興寺 岩崎 恵子 様
- 教専寺 浜上由美子 様
- 信行寺 塩田フデノ 様
- 浄明寺 岩崎 信子 様
- 浄明寺 森蔭紀代美 様
- 覚性寺 尾崎 輝喜 様
- 覚性寺 尾崎ゆり子 様
- 光台寺 岩崎 弘 様
- 光台寺 深海佳代子 様

即如上人による「親教」(鷲森別院にて)

このたびは、本願寺鷲森別院蓮如上人五百回遠忌法要、並びに本願寺鷲森別院再建十周年慶讃法要を有縁の皆様と一緒に勤められましたこと、まことにありがとうございます。またうれしく存じます。

このたびのご法要、そしてご本堂、その他諸設備の充実のためにひとかたならぬご尽力、ご協賛くださった方々に心より感謝申し上げます。

ちょうど十年前、一九九五四年四月八日・九日と、このご本堂の落慶法要を皆様と一緒に勤めいたしました。



したことを思い出します。それは、阪神淡路大震災の三ヶ月後、地下鉄サリン事件の三週間後のことでした。それから十年もたたないうちに、新潟・福岡と大きな地震がありました。海外では台湾・イランの地震。そしてスマトラ沖地震・津波があり、さらに人間が引き起こす事件として、アメリカにおけるテロ事件に続く戦争が今日も続いているといえます。皆様一人一人の身の上にもさまざまなおありに

なりましたことと思っております。さて、蓮如上人のご生涯とこの別院の歴史につきましても、皆様ご承知のことと思いますが、先ほどの表白文、また法要のしおり等などをご参考になつていただきたいと思っております。蓮如上人とご縁の深い当地で五百回遠忌法要をお勤めできますことは、一層味わいの深いことでございます。

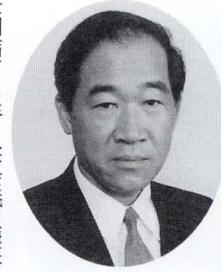
蓮如上人は当地ともご縁の深い御文章に、「信心獲得すといふは第十八の願をこころうるなり。この願をこころうるといふは、南無阿彌陀仏のすがたをこころうるなり。」とお述べになつていらつしやいます。浄土真宗のかなめは信心です。それは、訳も分からず信じるというようなことではなくて、南無阿彌陀仏のいわれ、つまり大事な内容がわが心に届くということとあります。南無阿彌陀仏の言葉の上では、私が阿彌陀如来さまを信じますという意味になります。中身は阿彌陀如来さまが私を救ってくださいますという意味です。お念仏だけで救われるというのには、どうももの足りないという現代人の批判を耳にいたしますが、その方におそらく南無阿彌陀仏の中身が届いていないから、あるいは南無阿彌陀仏を私のものにしてしまつて、自分の言葉のようにして救われるかどうかを考えているというのではないでしようか。たとえ話をいたしますと、

自分にとってよいなつかしい思い出を残した人の名前、心に思い浮かべ、声に出すだけで心がやすらぐこととあり、励まされることでもあります。心が届いているからであります。今ここに阿彌陀如来さまに救われる身になる、往生成仏が定まるということは私の人生にとってまことに重要なことです。人生という重い荷物を持っていても、目的地を見失い右往左往するのと、目的地が分かっている、一步一步進むのとでは全く内容が違います。人類ははるか昔から、いのちの根本問題である老・病・死に悩んできました。それは仏法が正面から取り組んできた課題でもありません。それとともにその時代、その場所で、人びとに共通の悩みごとや、各自一人だけの悩みごとをかかえています。

今日では、時代特有の悩みが深刻に感じられる場合が多いようにも思われます。ちょっと思いつくだけでも、高齢者の問題、青少年の問題行動や生きがい、年間数千人の交通事故死、三万人を超える自殺者、そして自然災害、さまざまな課題があります。その中でわが身に身近なことから取り組んでいきますと、一方には社会のあり方、仕組みに関わることが思われ、他方には私自身の生き方、何によって生きるかという問題が現れてきます。今日の社会では、人間を商品や機械のように扱う経済活動、学校の成績や見かけだけで子どもを評価する風潮があります。ひるがえって私自身が何によって生きるのか、それが分かりにくくなって不安になることなど、大事なことから気づかれます。そこから時代を越えた人間の根本問題を解決する教え、仏法を聞き、仏法に問う道が開かれてきます。親鸞聖人はご和讃に、「釈迦の教法おほけれど天親菩薩はねんごろに煩惱成就のわれらには弥陀の弘誓をすすめしむ」とうたわれました。煩惱がつかまることがない私ではありますが、阿彌陀さまにしっかりと受け止められ、人生にとって一番大切なことがらを教えられ、持っている力を十分に発揮して、この人生を生きぬきたいものがございます。このたびのご法要を機縁に、お念仏申しつつ、お互いに支え合っていく世の中、心豊かに生きることで世の中を築いてまいりたいと思っております。

宗会議員選挙行われる

内芝善明氏(円明寺門徒)が当選!



任期満了に伴う宗会議員選挙が行われ、日高組から門徒議員に内芝善明氏が、二期目の当選を果たされました。

門徒宗会議員の選挙は、去る四月二十二日開催の和歌山教区会において実施され、日高組選出の楠原議員(妙願寺)の推薦により内芝善明氏が推挙され、投票が行われた結果、当選が決定しました。また、二日前の四月二十日には僧侶宗会議員選挙が行われ、二名の立候補者による二十年ぶりの投

票となり、前職の藤下恒庸氏(和歌山組・西法寺住職)が三期目の当選を果たされました。

門徒宗会議員 内芝善明

組内皆様のご支援を頂き再び宗会の議席を頂きました。組内ご寺院、ご門徒皆様方に心からお礼を申し上げます。

一期目は、毎日毎日が勉強の四年間でありました。とりわけ、教化団体の育成、特に少年教化に対する、物心両面に渡る支援を強く求めてきました。

又、宗門財政の透明性と、より実行性のある適正な運営についてもいくつかの提言も含め訴えたところでは、

これからも、宗門の改革と宗教ビジョンの誤りのない方向に向けた基本計画策定に勢威取り組みます。...

一生懸命が生きる喜びを信条に、門徒の声を宗政に。日高の想いを宗会に、少しでも反映できるように努力し念仏相続に励みます。聞法の和を更にひろめるため精進します。

合掌



門徒心得

浄土真宗には、「釋○○」と、お釈迦さまのお弟子となったことをあらわす名前があります。仏教徒としての名前をあらわす言葉として、戒名が有名ですが、「釋○○」という名前は、戒名ではありません。

戒名ではなくて、「法名」といいます。「じちらでもよいではないか」という声が聞こえそうです。しかし、戒名を名告るからには戒律を守らなければなりません。戒律というのは、お釈迦さまが、人生を安らかに生きる道として、いろいろ戒(規律)を定められたものです。

戒名と法名

戒名とは、お釈迦さまが、人生を安らかに生きる道として、いろいろ戒(規律)を定められたものです。

薩戒などがあります。この戒律を守る生活こそ、本来あるべき仏教徒の生き方なのです。逆に、この戒律を無視すると、私達の人生が苦しみの多いものになるであろうという事は、きっと、御想像いただけると思います。

しかし、戒律をどれひとつ守ることができず、欲望や執着の心や、苦しみ、悩む心をもっているのが、私達の姿であります。お釈迦さまは、私達にも、救われていく道を教えて下さいました。阿彌陀さまのおはたらきによって、救われていく教です。戒律を守ることのできない姿のまま、阿彌陀さまのはたらき、ねがい・ちかいを聴かせていただく、法に遇う教です。私達は、阿彌陀さまの法の中に生かされています。「法」をよりどころとして、生かされている者の「名」として、私達は法名をいただくのです。

本願寺鷺森別院「法要厳修される

四月九日・十日の二日間に渡り、鷺森別院「法要」連如上人五百回遠忌「再建十周年慶讃法要」がご門主ご親修のもと営われました。約二千五百名の参拝があり、満開に桜吹雪の舞い散る中、今回のご勝縁に喜びの声が口々に溢れ出ていました。

日高組からは四月九日の速夜法要に百二十五名の参拝者が集まり、一時半からの庭儀のあと、正信念仏偈作法が勤められました。法要終了後、即如門主によるご親教では、連如上人の「信心獲得



庭儀の様子

章」を引用され、「浄土真宗のかなめは信心です。今ここに、阿彌陀如来様に救われる身となる、往生浄土が定まるといふことは、私の人生にとってまことに重要なこととす。」と語られました。また、ご門主から帰敬式(おかみそり)を十七名の方が受式されました。

法要には、日高組から両日併せて九名の法中が出勤し、ご門主間近での法要出勤に一際喜びを感じました。



ご門主による 帰敬式(おかみそり)の様子

日高組通信

【総代会】

前期研修会を八月二十八日(日)、午後二時より開催予定。ご講師は阿戸・教専寺ご住職・永原智行師ご講師は、「死について」です。会所は、網代・念興寺。

【真宗法座】

第十一回・真宗法座を十二月十

【納骨団体参拝】

平成十七年度、日高組納骨団体参拝を十月二十二日(土)に実施します。参加希望の方は、九月中旬頃までお手続きのお寺までお申し込み下さい。